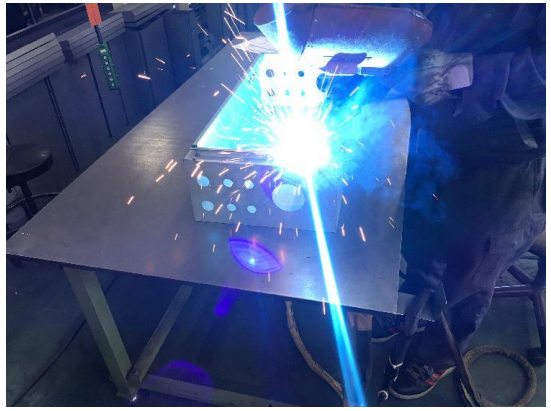
設備に付随するＩＴ機能の活用による“省人化”と“ヒューマンエラーの削減へ”

『
安価なものではない。
またシステムを理解しないといけない。
そこが難しい。しかし元はとれている。
』

有限会社広陽電業

＜住所＞
福山市新涯町/井原市芳井町
＜事業概要＞
制御盤製造
＜従業員数＞
10名



＜ＩＴ活用概要＞

・以前は事務所で指示書を作り，現場で指示書の内容（詳細項目等）を加工設備に直接入力していた。
・事務所のパソコンと現場の複数設備をネットワーク（ＬＡＮケーブル）でつなぎ，事務所のパソコンのデータを設備に転送。
・ミスの起きやすい工程を人による作業から自動化へ。

＜効果＞

・現場で図面確認を行え，指示書の作成は不要。指示書の手渡しミス等の単純なヒューマンエラーがなくなる。
・設備に寸法等のデータが入っている（パソコンと情報共有）ため，現場での詳細項目の入力が不要。ヒューマンエラーもなくなる。
・１名分の省人化が図れた。

＜実施の流れ＞

・１０年以上前から取り組みを開始。
・各種設備を同じメーカーに揃えることで，データ連携を簡易に。

＜活用した支援制度＞

・設備導入においては（国）ものづくり補助金を活用したケースあり。